

令和２年度 学校自己評価表（中間評価）

鳥取県立米子西高等学校

学校教育目標	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な地域を創造する人財の育成を図る。	今年度の重点事項	1 主体的に取り組む態度・思考力・実践力の育成 2 他者を認め、人となつがる力の育成 3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成 4 働き方改革の推進
--------	--	----------	---

評価項目	具体項目	現状	具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 主体的に取り組む態度、思考力の育成	授業改革の推進	各教科ごとにアクティブ・ラーニング推進月間を設定し、研究授業、授業研究会を実施している。ICTの活用を推進する必要がある。生徒アンケートの結果では意欲的に学習に取り組んでいると答えた生徒は70%であった。	授業研究会の質的向上とICTの活用を推進し、授業スキルの向上を図り、主体的・意欲的に学習に取り組んでいると答える生徒が75%以上になる。	・主体的、対話的で深い学びの推進と授業研究会の充実を図り、授業でのタブレットや電子黒板を利用する教員の増加に繋げる。(R1:45%→R2:60%) ・授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業力の向上を図る。	C	2学期末に授業アンケートの実施を徹底し、改善が必要な点を確認・分析し、授業力向上に活かす。	
	みらいチャレンジ活動の充実・発展	みらいチャレンジ活動も4年を経過した。自分の問題として課題を設定したり、フィールドワークを実施したりするグループも徐々に増えてきたが、まだ調べ学習に終わるものも多い。	地域の資源を活用した多様な教育活動により、生徒の主体性を育成する。	・ハイレベル講座を7月に開催し、「思考力・判断力・表現力」の強化を図る。 ・グループ学習やフィールドワーク等を積極的に導入し、課題解決学習の充実を図る。	A	・ハイレベル講座の実施により、より主体的にみらいチャレンジ活動に取り組む生徒が増えた。 ・事業所訪問や研究概要説明会を実施したことにより、より身近な課題として研究活動に取り組むようになった。(取組姿勢向上:70%→89%に上昇。)	
	学習習慣の定着	家庭学習時間を実施しているが、各学年とも、絶対的な学習時間が不足している。	体系的・組織的な「学習記録」を導入し、学習習慣の定着を図る。	・「学習記録」を導入し、自らの振り返りを通して、主体的に学習する習慣が身につくように指導する。 ・教科面談シートを活用し、成績不振者への指導を行う。	B	第3回家庭学習時間調査では、第1、2回と比較し、家庭学習時間が増加している。「学習記録」が生徒面談時に活用され生徒指導に活かされている。	
	進路指導の充実	国公立大学現役合格者数が38名・難関私立大現役合格者13名であり、目標を大きく下回った。	国公立大学現役合格者50名 難関私立大学現役合格者20名	・学年団と進路指導部との連携を密にし、面談等を通して生徒理解に努め、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行う。 ・生徒の能力を最大限に引き出せるよう、講習等の時期や内容について検討し、効果的に実施する。	B	・総合型選抜など幅広い入試に対応できるよう面談等を利用し指導を行っている。 ・進路調整会での個々の分析結果を元に、進路指導を実施している。 ・講習内容を吟味し、継続して実施している。	
2 他者を認め、人となつがる力の育成	基本的生活習慣の確立	挨拶ができなかったり、遅刻をする生徒も一定数おり、指導が必要である。令和元年度の遅刻者数は、1学級あたり平均で延べ35回であった。自己肯定感の高まりを感じる生徒が50%程度である。	・年間の遅刻者数が、1学級あたり平均で延べ35回未満 ・自己肯定感の高まりを感じる生徒が65%となる。	・令和元年度末に導入した「遅刻届」を活用して指導する。 ・掃除を徹底し、奉仕の精神を培い、校内美化に努める。 ・SNSモラルについて指導し、情報リテラシーの育成を図る。 ・探究的な活動や生徒会行事、ボランティア活動等、様々な活動を通して、生徒に達成感・効力感を獲得させる。	B	・遅刻回数は9月末段階で昨年度に比べ約40%減少した。 ・hyper-QUIアンケートから見てきた生徒の心理状態を掴み、担任、学年団と連携しながら早期対応に努めている。 ・「メディア利用」に関するアンケートを実施し、生徒の現状を把握し、情報モラルやルールについて啓発活動を行っている。	
	部活動の奨励	多くの生徒が部活動に所属し、活発に活動しているが、学業との両立に苦慮している生徒もいる。令和元年度は運動部全国・中国大会37競技、文化部全国大会7部門が出場した。	運動部全国・中国大会20競技以上、文化部全国大会5部門以上出場	・本校部活動方針の枠組みの中で、効率的な部活動運営と生徒の主体的な取組を促進させる。 ・部活動と学業との両立ができるように、生徒個人個人の状況を把握しながら、部活動指導を行う。	B	・新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの大会が中止になったが、校内活動は感染防止対策を徹底した上で実施することができた。	
	社会人講師の活用	社会人講師活用事業や家庭科・公民科の授業等で実施している。	社会の一員となる意識を育む。	・人権教育・主権者教育・キャリア教育等幅広く社会人講師を活用し、豊かな心の育成、望ましい人間関係の構築、社会に参画する態度の育成を図る。	B	生徒は、教員からでは学べないリアルな知識・スキルを吸収することができた。自らの視野を広げるとともにチャレンジ精神を鼓舞することにも繋がった。	
3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成	地域資源を活用した教育活動の推進	地域資源の活用と積極的な地域連携を推進するために、令和元年度に米子市と「ふるさと教育における連携に関する協定」を締結した。	みらいチャレンジ活動において、年間5回の連携を図る。	・米子市と連携を密にし、円滑な探究活動を実施する。 ・課題テーマの提供、地域資源の紹介・接続、研究活動に係る指導助言、評価等について、米子市と連携し、探究活動の充実を図る。	B	・米子市から地域の課題や魅力について情報提供を受け、地域課題や魅力についての理解が深まった。興味や関心が一層高まり、研究に対する意欲が向上した。(48%→97%)	
	学校の魅力・特色の情報発信	文化部が協働し、文化部総合芸術祭「翠燦く」を開催し、地域に本校の魅力を発信している。(令和元年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止)	地域に情報を発信するとともに、地域を理解し、社会に貢献する態度を培う。	・「翠燦く」と「みらいチャレンジ活動成果発表会」を同日に開催し、部活動の枠を超えたコラボレーションや学習成果など、学校の特色・魅力を発信する。企画・運営方法を早期に決定し、例年より早い時期に開催する。	B	・「翠燦く」と「みらいチャレンジ活動成果発表会」の同時開催に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から安全対策や同時開催の見直しを含めて検討する必要がある。	
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	部活動の指導時間や教材研究等で、時間外業務が増えている教員もあり、削減が急務である。	時間外業務時間月45時間、年間360時間を超えないようにする。	・「鳥取県立米子西高等学校部活動に係る方針」を遵守する。 ・行事、会議の精選によって業務の効率化を図る。	C	時間外業務時間は個人差があり、基準となる時間を超える職員もあった。業務の見直しを図り、時間外業務の削減に努める。	

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要